

「ヒバクシャ国際署名」への協力をお願い

私たち真宗大谷派は、宗祖親鸞聖人の仰せになきことを仰せとして語り、国家が引き起こした戦争に加担し、仏法の名のもとに多くの青年たちを戦場へと送り出したという歴史を有しています。その懺悔の思念のもと、戦争でいのち奪われた全ての人たちに思いを馳せ、非戦を誓う「全戦没者追弔法会」を毎年4月に厳修いたしております。また、1995年には、宗議会・参議会により、「賜った信心の知恵をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまない」（不戦決議）という非戦の誓いを表明し、これまで取り組みを進めてまいりました。

今もなお、この地球上では戦乱や紛争が絶えず、数多くの人びとの命が奪われています。これら戦争を巡り、人間の無明の闇を表すものの一つとして「核兵器」があります。1945年、人類史上初めての原子爆弾の投下によって、「核兵器」が甚大な被害をもたらすだけでなく、その後も長く続く放射能被害を広めていく非人道的な大量破壊兵器であることを、ヒロシマ、ナガサキの被害の事実が明らかにしております。

さらに、2011年の福島第一原子力発電所事故により、原子力の平和利用と称して始められた原子力発電であっても、現在のみならず未来のいのちをも脅かす放射線被曝を避け得ないことが明らかになった今、原発に依存しない社会の実現が何よりも急がれています。

「同朋社会の顕現」を願う私たち宗門において、「核兵器」がこの地球に存在すること自体が大きな矛盾を抱えるものであります。念仏者の実践として核廃絶に向けてできるところから活動していかねばならないと思います。

このたび、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が核兵器廃絶を訴える国際署名として、全世界において展開される「ヒバクシャ国際署名」に対し、宗派として協力することといたしました。ぜひとも皆さまのご協力をお願いいたします。

2019年8月1日

真宗大谷派宗務総長 但馬 弘